

KYOTO SHIBORI BIKYO



Photo by 福尾行洋事務所

京鹿の子紋について	… 2
染色工芸作家輝染	… 4
輝染のきもの	… 6～19
KIZOMÉ	
デジタル3D紋シリーズ	…21
a.un シリーズ	…22～23
kizomé+シリーズ	…24
インテリア	…25
アートパネル	…26～27

京鹿の子紋について

「京鹿の子紋」は着物や帯などに使われる染色技法の「絞り染め」の技術に属し、1976年に「伝統的工芸品産業の振興に関する法律（伝産法）」に基づき指定された国の伝統的工芸品です。もともとは、生地を糸を一粒ずつ糸で括（くく）って絞ることにより染め分けするもので、その括り模様が子鹿の背にある斑点に似ていることから「かのこ」もしくは「鹿の子絞り」と呼ばれます。

「京鹿の子紋」の名称は、京都（京都市・亀岡市・綴喜郡・相楽郡・船井郡・城陽市・京田辺市）で製造される「絞り」全般を総称したのですが、糸で括って染める疋田絞りなどの「括り」の技法以外に、折りたたんだ生地を型板の間にはさんで留める「板締め」などの染め分けの技法を用いるものについても、京都では「京鹿の子紋」の一種として扱われます。



《疋田絞りとは》

生地を爪の大きさにも満たない面積をつまんで4つに折り、絹糸で一粒一粒3回から7回巻いて括る作業を繰り返すことで模様を作り出します。

絞りの着物1枚には大体12万個から30万個の括りを施します。

《板締め絞りとは》

京鹿の子紋の染め分け技法のひとつです。2枚の平らな板の間に生地をはさんできつく縛ったまま染液につけると、はさまれた部分に染液が浸透しないため防染することができます。板締め絞りに用いる板を「型」と呼び、四角い形だけでなく、丸や三角などいろいろありますが、2枚でしっかりはさむ必要があるため、生地をはさむ面は平らになっています。

「板締め絞り」では生地たたみ方やはさむ位置、板の形などにより、多様な模様を染め分けることができます。板と生地のわずかな隙間に入り込んだ染液がもたらす「ぼかし」が特徴で、それが手作りの味になっています。

伝統工芸士松岡輝一は、この「板締め絞り」の伝統技法から、新たな技法「デジタル3D絞」を生み出しました。

《デジタル3D絞とは》

「デジタル3D絞」は京鹿の子紋伝統工芸士の松岡輝一が開発した技法で、デジタル3D技術を用いて制作した道具（＝型）を使用して、京鹿の子紋の染め分け技法の一つである「板締め絞り」をほどこすものです。従来の板締め絞りに使用する型は、前述のとおり生地をはさむ面が必ず平らになっていましたが、デジタル3D技術を用いて制作した型は生地をはさむ面が平面でなくても、染液に浸けた際にしっかり防染できるのが特徴です。型を3Dプリンターで作りますが、全ての工程は従来の板締め絞りと同様手作業で「ぼかし」が醸し出す手作りの味が楽しめます。さらに、はさまれた部分が凹凸になることで、従来の板締め絞りにはなかった柔らかな風合いが加わります。

「デジタル3D絞」は商標登録済みです。



染色工芸作家 輝染

大学卒業後、高級京呉服の製造販売を行う㈱京都美京に入社し、染色工芸作家・染色プロデューサーとして活躍しました。古典絞り本来の絹製品に新しい感覚の絞り技法を取り入れ、ジャパンメイドにこだわったものづくりを行っていましたが、2014年にパリで開催された「SNBA 2014 Carrousel du Louvre」に出展して審査員特別賞を受賞したのをきっかけに、海外展開に意欲的に取り組むようになりました。

2014年に京鹿の子絞（染色部門）伝統工芸士に認定され、2016年に㈱京都絞美京を設立、代表取締役役に就任しました。2017年には京都市伝統産業「未来の名匠」に認定されました。

現在は京鹿の子絞の伝統技法を活かした洋装ファッション・インテリア雑貨のブランド『KIZOMÉ』を展開し、日本の絞りの伝統技術を幅広くアピールすると同時に、絞り染めを用いてつくられた着物を世界中へ届けるため、新しい製品の開発に積極的に取り組んでいます。



《伝統工芸士とは》

経済産業大臣が指定する伝統的工芸品の製造に従事する技術者の中から、ある条件を満たした上で、高度の技術・技法を保持する者が伝統工芸士に認定されます。

着物の京友禅や京鹿の子絞は50以上の工程を要するものも多く、一人で全行程をこなすことはありません。松岡輝一 雅号「輝染（きせん）」は京鹿の子絞の染色部門で伝統工芸士に認定されました。



輝染のきもの

染色工芸作家輝染は、代々受け継いできた知識と技術を駆使して、お客様にご満足いただけるきものをお客様と一緒に作り上げたいと考えています。

お客様お一人お一人の個性を生かすきもの、柄や地色をお選びいただけるセミオーダーの品を取り揃えております。



『辻乃細道』シリーズ

染色工芸作家で京鹿の子紋伝統工芸士の輝染が手掛けるきものの中の「辻乃細道」シリーズは、ぼかし染めをした生地に縞疋田絞りをほどこし、金彩手描きで辻ヶ花の柄を描いて友禅染めで仕上げた最高級品です。





『辻乃細道』振袖

ぼかし染めをした生地に縹疋田絞りをほどこし、金彩手描きで辻ヶ花の柄を描いて友禅染めで仕上げたもので、染色工芸作家で京鹿の子絞伝統工芸士の輝染が手がける最高級の振袖です。



『辻乃細道』たてぼかし訪問着

たてぼかしは着物の縦方向にぼかし染めでグラデーションを生み出します。多色でシャープなたてぼかし染めをした生地に縹疋田絞りをほどこし、金彩手描きで辻ヶ花の柄を描いて友禅染めで仕上げたもので、染色工芸作家で京鹿の子絞伝統工芸士の輝染が手がける最高級の訪問着です。



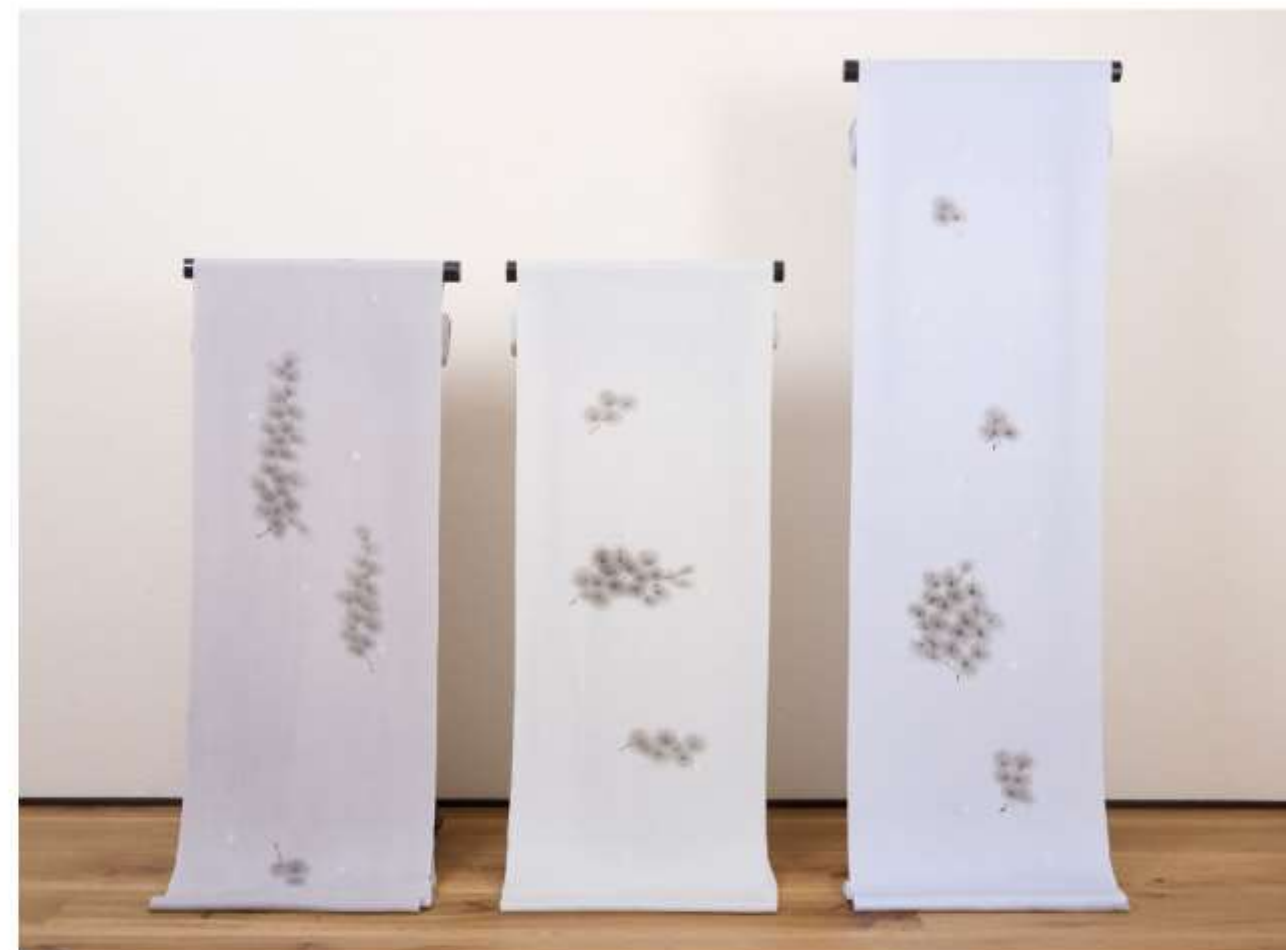


『帽子絞り & 疋田絞り入り竹絞り』

附下小紋・帯

染色工芸作家で京鹿の子絞伝統工芸士の輝染が手がける『帽子絞り & 疋田絞り入り竹絞り』シリーズは、小さな竹の道具を使って生地を折りたたみ、花の柄に染め分けしています。彩色した部分に帽子絞りをほどこし、疋田絞りで「点」と「線」と「流れ」の模様を形作って染めています。

着物と帯がございます。



『粋招人～松乃古都富貴』

小紋（附下づけ）・帯

染色工芸作家で京鹿の子絞伝統工芸士の輝染が手がける『粋招人～松乃古都富貴』シリーズ、松の柄は「たて」「よこ」「まる」の3通りで、着物と帯がございます。

着物は生地全体に疋田絞りを飛ばして絞り染めをし、カチン手描きで松の柄を描きます。帯はカチン手書きで松を描いてから、ぼかし染めをします。





『疋田絞り入り帽子絞り』小紋・帯

染色工芸作家で京鹿の子紋伝統工芸士の輝染が手がける『疋田絞り入り帽子絞り』シリーズは、疋田絞りを全体に飛ばし、彩色した部分に帽子絞りをほどこしています。彩色した上に絞りをほどこすと、全体を染めても色が残ります。その柄の上にさらに友禅やカチン手描きを加えることで柄の表現力が増すのです。

着物と帯がございます。



『縫い締め入り柳絞り』小紋・帯

染色工芸作家で京鹿の子紋伝統工芸士の輝染が手がける『縫い締め入り柳絞り』は、ジグザグ柄の下絵にしたがって木綿糸で生地を細かく平縫いし、糸を引き締めて生地を寄せ、それをロープのように巻き上げて柳絞りをほどこして染めたものです。

縫い締めをほどこすジグザグ柄の幅により全体の雰囲気や価格が異なります。

着物と帯がございます。





『疋田絞り入り』小紋・帯

染色工芸作家で京鹿の子紋伝統工芸士の輝染が手がける着物・帯には全体に疋田絞りを飛ばしたものが多数ございます。

白生地に疋田絞りをほどこしてから染色すると絞りの粒が染まらずに残ります。白い粒の絞り柄が全体に散らばって、帽子絞りや竹絞りなどで生み出した柄を引き立てます。



『Black Labels』小紋・帯

染色工芸作家で京鹿の子紋伝統工芸士の輝染が手がける『Black Labels』シリーズは、疋田絞りをを用いて古典柄を現代にマッチする柄にアレンジしています。防染した絞り部分の白が黒っぽい地色にくっきりと浮かんで柄を作り出すのが特徴で、色々な柄を取り揃えております。

着物・帯を同柄で揃えることもできます。





『疋田絞り』小紋・帯

染色工芸作家で京鹿の子紋伝統工芸士の輝染が手がける疋田絞りの小紋・帯です。

デザインした柄に合わせて彩色した部分に疋田絞りをほどこし再度染色すると、最初に彩色した色が絞りの粒の色になります。





『辻乃細道』帯

染色工芸作家で京鹿の子紋伝統工芸士の輝染が手がける『辻乃細道』シリーズ帯には、ぼかし染めをした生地に縞足田紋りをほどこして金彩手描きで辻ヶ花を描き、友禅染めで仕上げたものや、生地全体に足田紋りを飛ばし、カチン手描きに彩色したものなどがございます。

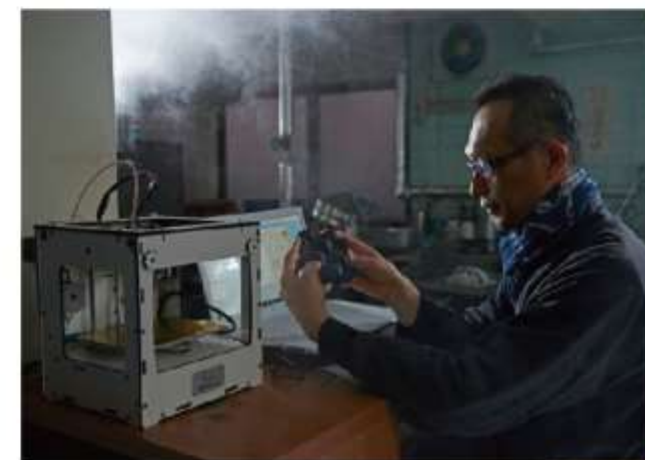


『デジタル 3D 紋』帯

輝染が開発した『デジタル 3D 紋』をほどこした帯です（3 ページ参照）。

型は 3D プリンターで作りますが、全ての工程が従来の板締め紋り同様手作業であるため「ぼかし」が醸し出す手作りの味と、生地が凹凸になることで加わる柔らかな風合いが楽しめます。

『デジタル 3D 紋』は登録商標です。



KIZOMÉ

『KIZOMÉ』は長年培ってきた京鹿の子絞の技法を活かした京都の洋装ファッション雑貨・インテリアのブランドです。



デジタル 3D 絞スカーフ〈わっふる〉 にちりん



デジタル 3D 絞ストール〈わっふる〉 そら（横柄）



デジタル 3D 絞ストール〈わっふる〉 そら（斜柄）

KIZOMÉ デジタル 3D 絞シリーズ

京鹿の子絞の伝統技法とデジタル 3D の新技術を融合させてサステナブルな伝統工芸を目指します。



a.un スカーフ きんぎょ



a.un バッグ 〈kakishibu〉



a.un ストール 〈monochrome〉 FACES



a.un バッグ 〈monochrome〉 サコッシュ/ミニボストン



a.un ルームシューズ 〈モロッコ〉 (レザー) / (コットン)



a.un バッグ 〈monochrome〉 ショルダー/バックパック

KIZOMÉ a.un シリーズ

京鹿の子紋伝統工芸士が絞り染め技法を駆使して
京都で手染めしたアイテムです。



kizomé+ バッグ 〈コラボレーション〉
室町呉袋 × KIZOMÉ



kizomé+ カットソー 〈コラボレーション〉
FAIRFAX × KIZOMÉ

KIZOMÉ kizomé+ シリーズ

KIZOMÉ が国内外のデザイナーやブランドとコラボして生まれたアイテムです。



SHIBORI Lighting cover チュバ



SHIBORI-Tray

KIZOMÉ インテリア

京鹿の子紋は日々の生活にとけ込んでおしゃれな空間を演出します。



SHIBORI-Art panel 深陰／深光

KIZOMÉ アートパネル

着物に使用する生地をアートパネルに別織りして
疋田絞りをほどこし、ぼかし染めをしています。

写真のアートパネルのサイズは 50 cm × 120 cm
です。

『深陰』『深光』は MAISON & OBJET 2024 出品、
『深雪』は MAISON & OBJET 2023、『深海』『深緑』
は MAISON & OBJET 2022 出品。



SHIBORI-Art panel 深雪



SHIBORI-Art panel 深海／深緑

染色工芸作家 輝染（きせん）

染色工芸作家 松仙（しょうせん）に師事し染色を学ぶ
2014年 京鹿の子絞（染色部門）伝統工芸士に認定
2017年 京都市伝統産業「未来の名匠」に認定

受賞・入選歴

2006年 第29回日本染織作家展入選 訪問着『流れ』
2010年 第33回日本染織作家展入選 訪問着『悟りの窓』
2012年 第35回日本染織作家展入選 訪問着『格子のムコウに』
2013年 第36回日本染織作家展入選 訪問着『薫風・華のメロディー』
2014年 第37回日本染織作家展入選 訪問着『富士映えりて』
SNBA2014 Carrousel du Louvre 審査員賞受賞
訪問着『松尽くし』
2015年 第38回日本染織作家展入選 訪問着『RINPA』
2018年 Ambiente trends 2018 に選定 デジタル3D絞スカーフ〈わっふる〉シリーズ
第41回日本染織作家展入選 訪問着『辻乃細道』
2020年 全国伝統的工芸品公募展入選 絞りアートパネル『海中から見上げた空』
2021年 全国伝統的工芸品公募展入選 絞りアートパネル『深海』
2022年 全国伝統的工芸品公募展入選 訪問着『辻乃細道』
アロハシャツ『ITAZIME』・KIZOMÉ コラボトートバッグ

株式会社 京都絞美京
〒604-8863 京都市中京区壬生中川町 2-3

1937年 京都で染色加工業開始
1959年 京鹿の子絞加工開始
1975年 京呉服の製造販売開始
1978年 (株)京都美京設立
2016年 (株)京都絞美京設立

2019年10月 京都府経営革新計画承認
2020年5月 京都府元気印中小企業に認定



KIZOMÉ